

セイコーホールディングスグループのCSR

セイコーホールディングスグループのCSRは、基本理念である「社会に信頼される会社であること」の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することと考えています。
わたしたちは、この実現に向けて、以下の取り組みを推進していきます。

- 1 革新的な技術、質の高い商品・サービスの提供を通じて、より良い社会づくりに貢献します。
- 2 ステークホルダーの期待・要請を踏まえて、事業活動が社会に与える影響に責任をもって対処します。
- 3 法令および国際的な規範を遵守し、ステークホルダーとの対話を基盤に透明性・公正性の高い企業経営を推進します。

- P.24** コーポレート・ガバナンス (Corporate Governance)
- P.33** 環境保全の課題解決に向けて (Towards solving environmental issues)
- P.26** お客さまとともに (Together with customers)
- P.31** 地域・社会とともに (Together with the community and society)
- P.27** お取引先とともに (Together with business partners)
- P.28** 株主・投資家とともに (Together with shareholders and investors)
- P.29** 社員とともに (Together with employees)

CSR編集方針

● 読みやすくするために文章を簡潔にし、ビジュアルも大きくして内容を把握しやすくしました。

【報告対象範囲と期間】

本レポートは、セイコーホールディングス(株)および各事業会社[※]における2014年度(2014年4月1日から2015年3月31日まで)の活動を中心にご報告しています。
[※]セイコーウオッチ(株)、セイコーインスツル(株)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコーソリューションズ(株)、セイコークロック(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)の各社です。

【参照ガイドライン】

GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン2013」、環境省「環境報告ガイドライン2012年版」、
「環境会計ガイドライン2005年版」、日本経団連「企業行動憲章」

【ウェブサイトとの連携】

本レポートではセイコーホールディングス(株)および各事業会社のCSR活動のエッセンスをお伝えし、ウェブサイトにも同様の情報を掲載しています。内容は随時改訂されますので、最新情報は下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.seiko.co.jp/csr/>



コーポレート・ガバナンス

グループの基本理念である「社会に信頼される会社であること」を実現するために、法令の遵守、経営の透明性・公正性の確保、社会倫理の尊重を重要な経営課題と位置づけ、その実現に向けたコーポレート・ガバナンスの強化推進に取り組んでいます。

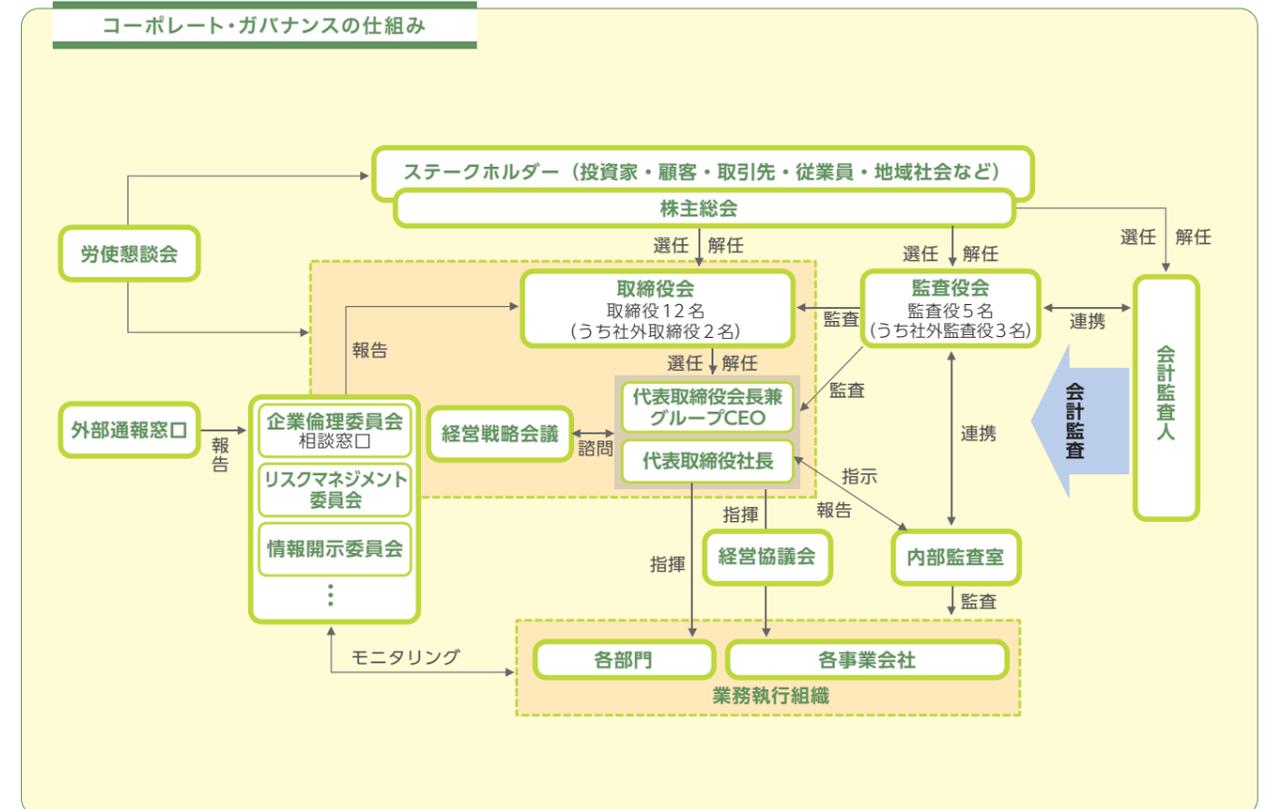
迅速で適切な経営を支える コーポレート・ガバナンス体制

セイコーホールディングス(株)は、持株会社として事業ごとの経営責任の明確化を図るとともに、迅速な経営判断と機動的な施策の実行を通して、経営環境の変化に対応できる組織体制をとっています。取締役会において常に連結事業会社の状況を把握し、必要に応じて各社より説明を受け、適切な意思決定を行います。また、代表取締役の諮問機関である経営戦略会議においては、業務執行の基本事項を審議し、経営活動を適正迅速に推進することを目指しています。一方、経営協議会は、当社役員と各事業会社の社長で構成され、各事業会社の業務執行状況の把握に努めています。

リスクを予見予防し、 被害を最小化

セイコーホールディングスグループは、変化するリスクに対応するために、リスクマネジメント委員会を設置し、リスク管理体制の改善を推進しています。委員会では、経営に甚大な損失をもたらす恐れのある重要リスクへの対応などについて審議するとともに、さまざまなリスクを識別・共有して活動を進めています。

2015年にはリスク管理システムを導入しました。今後は、起こりうるリスクの可能性とその対応策をガイドラインとしてまとめ、情報の質の均一化や共有、活用促進に向けた教育を実施していく予定です。



企業倫理・コンプライアンス体制の維持・推進に向けた取り組み

セイコーホールディングス(株)は、企業倫理・コンプライアンス(法令順守)体制の維持・推進を重要な経営課題の一つと捉え、役員および社員を対象に企業倫理研修を実施しています。

事業会社を含めた役員に対しては、法的なリスクを回避して適正な経営を行うために、自らの権限・義務に関する知識を記した「法令ハンドブック」を配布しています。また、「インサイダー取引規制」など、コンプライアンスに関する研修を行っています。

従業員に対しては、「反社会的勢力排除」「個人情報保護」など、日常の業務に関連する事柄についての研修を年2回実施しています。



法令ハンドブック

また、コンプライアンス体制の維持・推進状況を定期的に確認するため、内部監査室による監査等を実施しています。

会社法内部統制システム監査では、当社を含めた会社法上の大会社8社を対象に、会社法および関連法令に基づき、

コンプライアンスに係る基本方針、行動規準の制定・周知や、リスクマネジメント体制の整備(構築・運用)状況を確認しています。

財務報告に係る内部統制評価(J-SOX)では、グループ全体の内部統制の基盤として、適正な財務諸表の作成に向けた、財務報告プロセス、業務プロセスの確認を行っています。



その他、個人情報保護監査、情報セキュリティ監査、インサイダー取引防止管理に関する監査などを展開し、幅広い観点から内部統制に努めています。

BCP(事業継続計画)を視野に入れた取り組み

セイコーホールディングス(株)は、BCP(事業継続計画)の観点からIT利用環境の整備と大規模災害発生への対応に努めています。

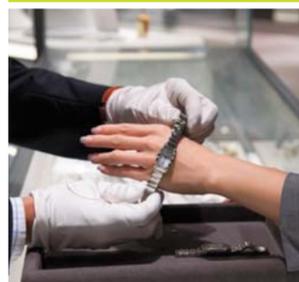
IT利用環境の整備については、防災性とセキュリティ性に優れた外部のデータセンターにサーバを移管することで耐障害性を高めるとともに、仮想化によってサーバの効率的な稼働と冗長性の向上を図っています。さらに今後は、データセンターの一極集中に伴うリスクを分散するため、ミラーサイトを設けたり、災害でオフィスに入れない事態に備え、社外からでも安全にシステムを利用できる環境の構築を検討していきます。

また、大規模災害の発生を想定し、「危機管理マニュアル」で定めた災害対策本部各班の取り組みをシミュレーションする訓練を行うなど、お客さまと社員の安全確保に備えています。



セイコーホールディングス(株) 災害対策本部訓練

CSR



お客さまとともに

お客さまの多様なニーズの一つひとつきめ細かく対応することをカスタマーサービスの基本として、お問い合わせやご相談、ご意見、修理依頼など、お客さまの声やご要望をしっかりと把握し、適切・迅速・公平な対応を心がけ、常にお客さまとの接点の深化を図っています。

世界中のマーケットをカバーするサービスネットワーク

セイコーウオッチ(株)は、93か国・地域、145か所においてサービス網を展開しています。本社のアフターサービス部門では、各地のサービスの質をモニターし改善を図ることで、世界中どこでも同じ高水準のサービスを目指しています。この目標達成に向けた活動の一つとして、2010年に「セイコー認定時計師計画」を開始しました。これは、各地から優秀な修理技能者を集め、試験に合格した人を「セイコー認定時計師」として認める制度であり、認定時計師はサービスセンターに戻った後、同僚を指導することでセンター全体のレベルアップにつなげていきます。すでにアジア、欧州、アメリカで展開し、認定時計師の数は着実に増えています。

また、サービスセンターの設備について新たに高いレベルの基準を設定し、世界中で空气中に塵がほとんどない理想的な空間でのオーバーホールを目指しています。そして高級腕時計のロングセラーである「グランドセイコー」では、お客さまの深い愛着が中身のムーブメントにも及ぶことから、良品のムーブメントに取り替えるのではなく、持ち込まれたムーブメントをオーバーホールしています。こうしたニーズに応えていくためにも、素早いオーバーホール、修理、メンテナンスが行えるサービスセンターの拡充を図っていきます。



「セイコー認定時計師」試験風景 (Seiko Nederland B.V./オランダ)

メーカー修理が手軽に利用できる「オンライン修理受付」

セイコーサービスセンター(株)は、2011年からセイコーウオッチ(株)のウェブサイトを通じた「オンライン修理受付」を開始しました。お客さまがパソコンに必要事項を入力いただくと、すぐに修理料金の見積りやおおよその納期が表示され、修理依頼ができる仕組みであり、宅配会社が指定の時間・場所で集荷するので、多忙なお客さまや近くに販売店のないお客さまにも、純正部品を使ったメーカー修理を手軽にご利用いただくことができます。



URL <http://www.seiko-ssc.co.jp/service/online/>

セイコーサービスセンター(株)

会社設立50周年 ウオッチ修理累計2,000万個達成

セイコーのウオッチ修理専門会社として1964年に設立されたセイコーサービスセンター(株)は、昨年設立50周年を迎え、ウオッチ修理累計2,000万個を達成しました。メーカーならではの最新設備と検査体制、卓越した技能をもつ修理技術者を有する同社は、お客さまの大切な時計の性能と価値の維持に努め、信頼にお応えしています。



お取引先とともに

セイコーホールディングスグループの事業活動は、お取引先の皆さまとの協働で成り立っています。より良い協働関係を保つために、関係法令を遵守するとともに、相互信頼を築くように努めています。

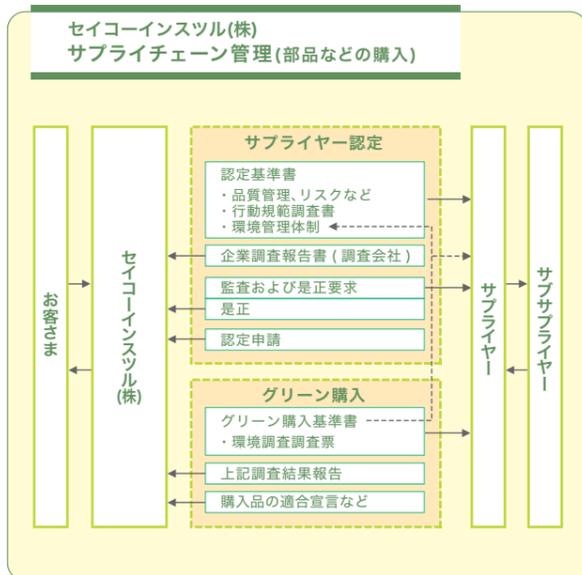


適正な購買取引を行うために

適正な購買取引のためには相互理解と法令遵守が不可欠です。セイコーホールディングス(株)は、企業倫理行動指針において独占禁止法や不正競争防止法をはじめとする各種法令を遵守し、適正な購買取引を行うことを事業の基本方針として定め、それぞれの事業会社においても徹底しています。

サプライヤー認定制度

セイコーインスツル(株)は、2004年度よりサプライヤー各社の行動規範管理体制、経営状態、環境管理体制などについて調査を行い、一定の基準を満たしたサプライヤーを認定する制度を導入しています。現在、国内では約1,000社を認定し、海外拠点が直接取引している直接材料サプライヤーの9割以上についても認定審査を完了しています。2015年度も引き続き認定率100%を目指していきます。



流通販売店などとの協働

セイコーの商品が並ぶ店頭で、お客さまに商品の魅力・特性を正しくお伝えしていくために、流通販売店などとの間で商品についての正しい認識を共有する取り組みを進めています。各事業会社では、提案会、展示会、技術講習会、店頭訪問などを行い、流通販売店との協働関係の構築に努めています。店舗の業態・規模などに応じた宣伝・販売促進計画、店頭ディスプレイを提案するなど、販売に結びつく店頭づくりをサポートしています。

セイコーウオッチ(株)は、流通販売店との重要なコミュニケーションの場として、年2回提案会を開催し、新商品の特長だけでなく、開発の背景、対象としている消費者像、ブランド・ビジョンについてもご理解いただくように努めています。また、海外の現地法人や販売代理店のアフターサービスを支援するために、英訳版修理マニュアルを配布し、各地で講習会を定期的に開催しています。

セイコークロック(株)は、お客さまによりクロックを知っていただき、ご覧いただける企画展として、リズム時計工業(株)と共同で2014年6月・7月に「Japan Clock Fair(ジャパクロック フェア)」を国内デパート2か所で開催しました。世界に誇る両社の先進的な技術、優れた品質で造り出した多彩なラインアップから厳選したモデルを展示し、普段ご覧いただくことが少ないさまざまなクロックを“見て、聞いて、触れて”五感で楽しんでいただくとともに、クロックの歴史やトピックスなどあらゆる角度でクロックの魅力をご紹介します。今後も、本企画にご賛同いただける全国のデパートで継続的に開催していきたいと考えています。



Japan Clock Fair(ジャパクロック フェア)

株主・投資家とともに

株主や投資家の皆さまに対し、適時適切な情報開示を行い、誠実で透明性の高いコミュニケーションに努めています。



情報開示の基本方針と方法

セイコーホールディングス(株)は、金融商品取引法および東京証券取引所が定める規則に則った情報の開示を実施するとともに、当社の判断により株主や投資家の皆さまにとって重要かつ有効と思われる情報についてもタイムリーに開示しています。

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示については、同取引所の適時開示情報伝達システム(TDnet)に登録し公開するとともに、当社ウェブサイト上に速やかに掲載しています。

コミュニケーションを積極的に展開

グループの経営状況や事業戦略をご理解いただくために、セイコーホールディングス(株)社長や担当役員出席のもと、証券アナリスト・機関投資家向けの決算説明会など、各種説明会を定期的に開催しています。また、スモールミーティングや個別取材、工場見学会への対応も行っています。個人投資家の皆さまに対しては、ウェブサイトでもわかりやすい情報掲載に努めるなど、株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションを積極的に図っています。

株主総会・年次報告書

毎年6月下旬に開催する定時株主総会では、図表や映像を多く使用し、株主の皆さまにとってわかりやすい説明を心がけています。2015年は、「定時株主総会招集ご通知」をカラー化し、写真やグラフを使用した見やすいレイアウトに刷新しました。また、株主の皆さまの議決権行使のための検討期間を長くするため、招集通知の発送とウェブサイトへの掲載を例年よりも早く行いました。さらに、海外の株主さま向けに、招集通知の一部を英訳し、日本語版と同時にウェブサイトへ掲載しました。

年次報告書についても、文字を大きくし、ビジュアルを増



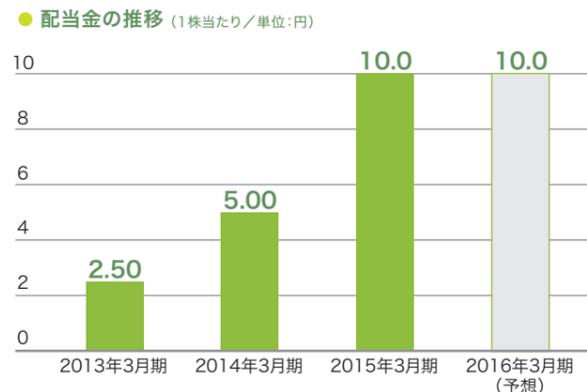
URL <http://www.seiko.co.jp/ir/individual/>

やし、1年間のニュースを時系列で表した「当期のふりかえり」や、経営トップが経営課題に関する質問に答える「トップインタビュー」を掲載するなど、わかりやすさに努めました。また、株主の皆さまより要望の多かった過去5年間の連結財務データの推移を表にし、掲載しました。

利益配分について

セイコーホールディングス(株)は、株主の皆さまに対する利益配分について、基本政策として安定配当の継続を重視しています。

2015年3月期は、同期の連結業績を勘案し、経営基盤強化のため内部留保の充実に配慮しつつ、安定配当実施の方針に従い、1株当たり10.0円の配当とさせていただきます。



社員とともに

セイコーホールディングスグループは、社員一人ひとりが安心して働ける職場環境を実現することで、社会的な責任を果たすと同時に、企業業績の永続的な向上を目指します。

社員の能力開発を支援

セイコーホールディングスグループは、男女共同参画の考えに沿って雇用機会均等に努め、社員の能力開発を支援する人財育成を推進しています。

女性活躍推進

第5次中期経営計画における施策のひとつである女性の活躍をより推進するため、女性管理職比率を2013年4月の5%台前半から2016年3月までに10%とする数値目標を掲げています。その目標達成に向け、2014年度からグループ横断的な組織として、各社の経営層から構成される「女性活躍推進委員会」と、各社の管理職と女性社員から構成される「女性活躍プロジェクト」が連動しながら、以下のようなさまざまな施策の取り組み、検討をスタートしています。これによって、女性活躍推進に対する管理職の意識改革、女性社員のキャリアアップ支援を行っていきます。

女性活躍推進 2014年度の主な活動

- ①女性活躍推進委員会(隔月)、女性活躍プロジェクト(年10回)の開催
- ②各種講演会、セミナーの実施
- ③女性活躍推進サイトの開設
- ④日本経済団体連合会「女性の役員・管理職登用に関する自主行動計画」の提出

女性活躍推進トピックス

時計修理の現場で活躍する女性技能者

セイコーホールディングスグループにおける女性の活躍は、時計修理の現場にも広がっています。セイコーサービスセンター(株)では、2010年頃から女性の修理技術者が増加し、2015年6月現在、修理部門における女性比率は36%となっています。2012年には、「第50回技能五輪全国大会」の時計修理部門において、同社の女性社員が敢闘賞に輝き、現在では後進の指導役としても活躍しています。



技能五輪で敢闘賞を獲得した高谷 愛美 (セイコーサービスセンター(株))

女性活躍推進 2015年度の主な計画

- ①管理職および女性社員の意識改革、キャリア育成
- ②働き方の多様化の検討
- ③男性社員の育児休業取得の促進
- ④働きやすい環境整備



女性社員向けキャリアアップセミナー

グローバル人財育成

セイコーホールディングスグループは、グループ共通の重点市場と位置づけているアジア地域で活躍するグローバル人財の育成を進めています。

国内でグローバルビジネスの基礎知識を学んだ後、3か月の海外現地派遣を通じて実践的なスキルを習得。帰国後は海外研修で得た知識や経験、情報などを生かし、派遣国のマーケットを攻略するための事業計画の立案、経営トップへのプレゼンテーションが行われます。

次の世代を担う子どもたちのために

育児休業・育児短時間勤務制度

セイコーホールディングスグループは、「育児介護休業法」に基づき、育児休業・育児短時間勤務制度を取得する社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員が働きやすい環境を整備することによって、安心して社員が各々の能力を発揮できる環境づくりに努めています。

育児休業・育児短時間勤務制度取得状況(国内主要連結会社)

| | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 | 2014年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 育児休業 | 70名 | 77名 | 66名 | 75名 |
| 育児短時間勤務 | 107名 | 101名 | 99名 | 100名 |

次世代育成支援行動計画に基づく人事制度

セイコーホールディングス(株)は、改正「次世代育成支援対策推進法」に基づき、次の世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育つ環境をつくるための行動計画を策定。現在、この行動計画を2020年までに達成することを目標として取り組みを進めています。

次世代育成支援行動計画(2020年までに)

- 目標1 計画期間終了前直近1年間の平均週労働時間が60時間以上の労働者の割合を5%以下とする。
- 目標2 計画期間終了前直近1年間の年次有給休暇の1人当たり平均年間取得日数を2015年度比の10%増とする。
- 目標3 女性社員の活躍推進のため、女性社員を対象としたキャリアアップ研修と、女性社員の育成のための管理職研修を継続実施する。

安心して働くことのできる職場環境づくり

安全衛生・健康管理

セイコーホールディングス(株)は、労働基準法、労働安全衛生法およびその他の安全衛生に関する法令の趣旨に基づき安全衛生管理規則を制定しています。総括安全衛生管理者、衛生管理者、産業医を選任し、定期健康診断の実施、衛生委員会の設置などにより、従業員の安全と健康の確保に努めています。2008年度からは、労働安全衛生法に基づく「定期健康診断」と、健康保険組合に新たに義務づけられた「特定健康診査・特定保健指導」に基づき、定期健康診断の検査項目の充実を図り、法定健診より幅

広い範囲で実施しています。

メンタルヘルス対策の推進

2000年8月に厚生労働省が発表した「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」にしたがい、2005年度よりメンタルヘルス対策への積極的な取り組みを開始し、グループ社員の心の健康の保持増進に努めています。

メンタルヘルス対策のための主な施策

- ①グループ管理職向け研修の実施
- ②グループ社員向けストレスチェックテストの実施
- ③社外24時間健康相談窓口「セイコー健康相談室24」の設置

障がい者雇用

セイコーホールディングスグループは、障がい者雇用を積極的に進めています。特例子会社制度によるグループ適用の認定を受けているセイコーホールディングス(株)および事業会社計8社の2015年6月1日時点の障がい者雇用率は2.45%と法定雇用率を上回る障がい者の方々を雇用しています。



障がい者雇用特例子会社(株)あおぼウオッチャーサービス

シニア人財の活性化

2013年4月から改正高齢者雇用安定法が施行され、原則として希望者全員が65歳まで継続雇用されることとなりました。セイコーホールディングスグループでは、これまで培った知識、人脈、専門スキルといった強みを生かした「頼られるベテラン社員」として、シニア人財のマインドチェンジを図ることで、シニア人財の活性化に取り組んでいます。若手育成など新たな役割の認識やモチベーションの向上などを目的に、年代別のキャリアデザインセミナーを開催しています。

地域・社会とともに

セイコーホールディングスグループでは、地域・社会の繁栄、地域・社会との共存を目的に、さまざまな活動に取り組んでいます。

海外でのスポーツ協賛活動

セイコーホールディングスグループ各社の海外現地法人は、スポーツを通じたチャリティーやボランティア活動に参加することで、地域活性化への貢献に努めています。

走り続ける人を称え、寄付を募るスポーツイベント

シンガポールで開催された「Run For Cover 2014」は、ランニングマシンでどれだけ長く走り続けることができるかを競うというユニークなスポーツイベントで、30km走行するごとに、白内障患者や高齢貧困層の人たちを支援する寄付金が支払われます。この大会で、セイコーは、オフィシャルタイマーを務め、競技を大いに盛り上げました。



Run For Cover 2014

知的障がい者の自立や社会参加を支援

スペシャルオリンピックスとは、知的障がいのある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。1968年に第一回夏季世界大会が開催され、現在は、夏季と冬季の世界大会がそれぞれ4年ごとに開催されています。2015年、世界165か国から6,500人のアスリートと3,000人のコーチが参加したスペシャルオリンピッ

クス ロサンゼルス夏季大会に、セイコーはシルバーチャンピオンスポンサーとして協賛しました。



2015年スペシャルオリンピックス ロサンゼルス夏季大会 オープニングセレモニー

国内でのスポーツ協賛活動

セイコーホールディングスグループ各社は、それぞれの事業の特性を生かしながら、スポーツを通じた子どもや若者の育成に貢献しています。

スポーツひのまるキッズ小学生柔道大会

スポーツひのまるキッズ小学生柔道大会は、小学生とその親と一緒に参加することで親子の絆を強めるイベントで、被災地復興支援活動として毎回東北地域の親子が招待されています。2014年は全国8地域で開催され、セイコーは、関東大会にタイマー1セットを貸与、全大会に賞品としてタイマークロック80個を無償で提供しました。



スポーツひのまるキッズ小学生柔道大会

水泳の日

スポーツによる社会貢献活動の一環として、水に親しみきっかけづくりを目的に制定された「水泳の日」。2015年、セイコーは東京辰巳国際水泳場で開催されたスタートイベントに協賛し、水泳競技の結果をウェブサイト

アップするとともに、銀座の和光 時計塔やセイコーミュージアムなどを訪問するバスツアーに被災地の子どもたちとコーチを招待しました。



「水泳の日」イベントバスツアー(セイコーミュージアム)

音楽を通じた取り組み

「わ」で奏でる東日本応援コンサート

被災地の方々に音楽で元気づけることを目的に、2011年から継続的に行っている東日本応援コンサート。2014年度は、7～9月に合計2,600人以上の人たちを招いて東北5か所で開催し、2015年3月11日には東京・日比谷公会堂に1,800人を集め、「わ」で奏でる東日本応援コンサート2015 in 東京」を開催しました。作編曲家・ジャズピアニストの前田憲男さんを中心に、実力派のシンガーの方々に出演していただきました。



「わ」で奏でる東日本応援コンサート2014 in 石巻

老人ホームコンサート

日頃コンサートに行く機会の少ないシニア世代の方々に、ワクワク・ドキドキするような楽しいひとときを過ごしていただきたい、との思いから、2014年9月より老人ホームでのコンサートを行っています。出演はワイルドワンズの鳥塚しげきさんと服部グループCEO。毎年、春・夏の各2回(年4回)の開催を予定しています。



老人ホームコンサート

目ざまし時計組み立て体験教室



「学び」の機会と場を提供する活動

目ざまし時計組み立て体験教室

セイコークロック(株)は、(一社)日本時計協会が主催、後援する「目ざまし時計組み立て体験教室」に、会員企業として協力・参加し、組み立てる時計の提供と講師などスタッフの派遣を行っています。2014年度は6月開催の東京おもちゃショー内での教室をはじめ3回実施し、子どもたちに文字板に自由に絵や文字を描いてもらい、世界でひとつだけのオリジナルクロックを組み立ててもらいました。

「時」と「時計」を学ぶ、セイコーミュージアム

セイコーミュージアムは、1981年の設立以来、日時計に始まる時計の歴史、日本の時計産業の歴史を紹介するとともに、セイコー創業時からのクロック・ウォッチを展示し、多くの方にご来館いただいています。

2015年は、6月10日の時の記念日に合わせてウェブサイト进行全面リニューアルしました。地方や海外など遠方の方でも、ウェブを通してミュージアムを疑似体験していただけるバーチャルツアー、クイズ・ゲーム・工作など遊びながら学べるキッズサイト、時計とセイコーの歴史、創業者エピソードなど盛りだくさんな内容で、より多くの方々に「時と時間」に関心をもっていただけるよう努めています。

URL <http://museum.seiko.co.jp>



URL <http://museum.seiko.co.jp/kids/>

環境保全の課題解決に向けて

セイコーホールディングスグループは、地球環境を守ることが人類共通の最重要課題であることを認識し、良き企業市民として環境の保全に配慮して行動しています。

環境理念

(改定：2013年6月/制定：1998年4月)

セイコーは、地球環境を守ることが人類共通の最重要課題であることを認識し、良き企業市民として環境の保全に配慮して行動します。

環境推進体制

セイコーホールディングスグループ各社の環境担当者が一堂に会し、方針を決める場が「環境連絡会」です。環境連絡会の「製造分科会」では、急速に変わっていく国内外の法規制やガイドラインなどに関する情報共有を主な目的として、定期的に連絡・報告を行っています。さらに、定期的に外部講師を招聘して、社員を対象に「環境セミナー」を開催するとともに、イントラネットの「環境トピックス」では、年間の目標とレビュー、環境をめぐる話題などを取り上げています。

環境会計

セイコーホールディングスグループでは、環境保全活動のコストと効果を集計しています。2014年度の環境保全コストは、設備投資額が867.7百万円、費用額が1,907.6百万円でした。その結果、CO₂排出量削減3,022.6トン、新規材料購入抑制量426トンといった量的な効果のほか、経済効果として623.2百万円の費用削減を達成できました。

環境に配慮した商品

セイコーホールディングスグループ各社は、環境に配慮した数多くの商品を市場に送り出しています。また、お客さまの製品の環境性能を向上できる製品、そして環境の改善に積極的に貢献する製品やサービスの創出に注力しています。

セイコーウォッチ(株)では、機械式時計や電池交換の不要な自動巻発電式時計、ソーラー発電式時計といった環境負荷の少ないウォッチの売上高に占める割合が7割超にいたっています。また、世界初のGPSソーラーウォッチ

「セイコー アストロン」は究極のエコウォッチでもあります。セイコーインスツル(株)は、「自社の製品が組み込まれることでお客さまの製品の環境性能を向上できる」「人びとが生活する環境の保全に貢献できる」という考え方をグリーン商品基準の評価項目に取り入れて運用しています。

セイコーソリューションズ(株)は、東京大学のグリーンICTプロジェクトに参画し、IEEE1888*に準拠した次世代通信システムとして、エネルギー制御・監視ソリューション「GreenTALK(グリーントーク)」をタイ・チュラロンコン大学に納入。全体的な空調制御を視野に入れたシステムとして、環境に配慮したエネルギー運用を実現しています。

セイコータイムシステム(株)は、デジタルサイネージと太陽光発電設備等を連動させたエコ表示やオフィスのフロア別電力使用量表示など、エネルギーの「見える化」により、環境への取り組みや節電・節水等の意識を高めるのに役立てています。

*IEEE(米国電気電子学会)が2011年に策定した国際的な通信規格のひとつ。

SIIグリーン商品の例

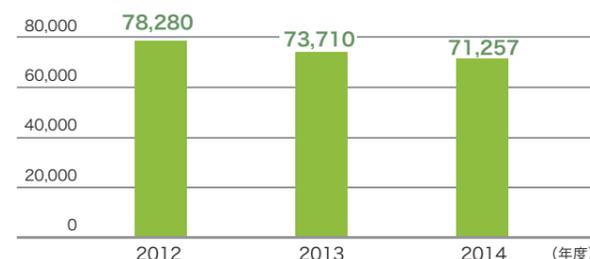


CO₂排出削減に寄与する社員による植林活動「セイコーインスツルの森」

地球温暖化防止

セイコーホールディングスグループは、環境会計の導入やCO₂排出量の公表など環境の見える化の推進により、商品の開発・製造・販売・サービスなどさまざまなプロセスにおいて、地球温暖化ガスの低減に取り組んでいます。

CO₂排出量 (トン)



循環型社会への貢献

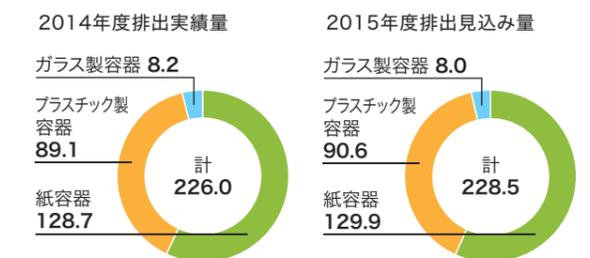
セイコーホールディングスグループ各社は、製造事業所内での活動はもとより、商品・包装材のリサイクルや省資源化に取り組む、限りある資源を大切にしています。

セイコーサービスセンター(株)では、ボタン型電池を販売店から回収し、専門業者に分解させ、再資源化しています。

セイコーインスツル(株)など事業会社3社は、小形充電式電池のリサイクル推進に取り組んでいます。

(株)和光、セイコーウォッチ(株)をはじめ、全事業会社は、梱包材料の減量化、分別・リサイクルを促進する商品表示に取り組むほか、排出量に応じ再資源化費用を負担しています。

容器包装排出量 (トン)



環境会計

環境保全コスト

集計範囲：セイコーウォッチ(株)、セイコーインスツル(株)、セイコープレジジョン(株)、セイコーNPC(株)、セイコーソリューションズ(株)、セイコーロック(株)、(株)和光、セイコータイムシステム(株)、セイコーオプティカルプロダクツ(株)、セイコーホールディングス(株) (事業会社9社、持株会社1社)
対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

(単位：百万円)

| 分類 | 内容 | 投資額 ^{※1} 2014年度 | 費用額 ^{※2} 2014年度 |
|-----------------|--------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1.事業エリア内コスト(内訳) | | | |
| ①公害防止コスト | 水質・大気・騒音など公害防止に関するコスト | 833.1 (662.5) | 1,424.9 (447.1) |
| ②地球温暖化防止コスト | 地球温暖化防止、オゾン層保護などに関するコスト | (170.6) | (544.9) |
| ③資源循環コスト | 省資源、廃棄物の削減・リサイクル、購入抑制など | (0.0) | (432.9) |
| 2.上流下流コスト | 環境配慮型製品の製造、製品・容器包装等のリサイクルなど | 0.6 | 55.9 |
| 3.管理活動コスト | 環境教育、環境情報の開示、環境マネジメントシステムの運用など | 34.0 | 303.1 |
| 4.研究開発コスト | 環境に関する研究開発など | 0.0 | 117.0 |
| 5.社会活動コスト | 環境保護団体、地域への支援など | 0.0 | 6.8 |
| 6.環境損傷対応コスト | 土壌汚染修復費など | 0.0 | 0.0 |
| 合計 | | 867.7 | 1,907.6 |

※1 投資額は2014年度単年のみの投資額です。全額を環境保全コストと判断できない場合は按分集計を行っています。

※2 費用額には2013年以前の減価償却費を含んでいます。(投資額を設備は5年、施設は10年で均等に分割して算出) 全額を環境保全コストと判断できない場合は按分集計を行っています。

環境保全効果

| 環境負荷 | 削減量(前年比) |
|------------------|-----------|
| CO ₂ | 3,022.6トン |
| 用水 | 35.6千㎡ |
| 紙資源 | -2.3トン |
| 産業廃棄物 | -290.9トン |
| 一般廃棄物 | -22.6トン |
| 新規材料購入抑制量(単年度効果) | 426.0トン |

環境活動に伴う経済効果 (単位：百万円)

| 実質効果の内容 | 実質効果(前年比) |
|---------------------|--------------|
| 省エネルギーによる費用の削減 | -120.1 |
| 省資源による費用の削減(水) | -3.6 |
| 省資源による費用の削減(紙) | -0.6 |
| 廃棄物処理費用の削減 | -10.9 |
| 有価物など売却による収入(単年度効果) | 183.5 |
| 新規材料購入抑制金額(単年度効果) | 346.8 |
| 合計 | 395.1 |
| 環境リスク回避効果試算(単年度効果) | |
| 大気、水質汚染などによる操業停止回避 | 176.2 |
| 不法投棄などによる罰則の回避・その他 | 51.9 |
| 合計 | 228.1 |
| 経済効果総合計 | 623.2 |

盛岡セイコー工業(株)

「いきもの共生事業所」第一号工場に認定

岩手県栗石町で機械式腕時計の一貫生産を行う盛岡セイコー工業(株)は、「山々と、水と緑と出湯の里『栗石』にふさわしい会社になる」ことを目標に環境活動に取り組んでいます。2015年2月には(一社)いきもの共生事業推進協議会が運営する「いきもの共生事業所[®]認証制度」における認証を取得。同制度の工場版認証としては第一号認証となります。

